

来たれ 一年後の自分

2012年8月8日10:00～15:30
生田オープンキャンパス

- ・活動報告展示
- ・植生管理活動
- ・間伐材を使った団扇づくり



1年前、僕はまだ自分のやりたいことが見つからなかった。
受験勉強に縛られ、大学入学はゴールのように考えていた。
大学生になって手探りだけれど、今こうして何かの役になっている。



オープンキャンパス
初日、天候にも恵まれ多くの来場者が生田坂を上りました。斜面沿いはヤマユリやギンランが咲く、こなの雑木林。

午前中は里山班を中心に学生が保全活動を行い、多様な植物相の維持に努め、その様子を来場者が見学しました。

有志学生の環境活動の実践に受験生の父母から質問が相次ぎ、学んだことを社会に即、生かす場所があることに驚いた様子でした。



午後は伐採した外来種、棕櫚の葉を使ったウチワづくり。

外来種の扱いについて考えると共に、自然素材の道具を作る難しさや伝統工芸の価値について、参加者と話し合いました。

「好きなことをより深く学びたい。そのために何をすればいいですか。」と高校生に聞かれた学生スタッフは「受け身でいては何も得られない。自分の目で見て、手を動かすと自分の特徴がみえてきますよ。」と伝えていました。卒業生や地域の方も参加して、大学ならではの良さを語りあったワークショップとなりました。



農学部2号館1階で活動報告の展示をしました。

管理区域に生息する環境指針プラナリアの生態展示や生き物調査の様子に、大学の研究について興味を持つ受験生が多く集まりました。

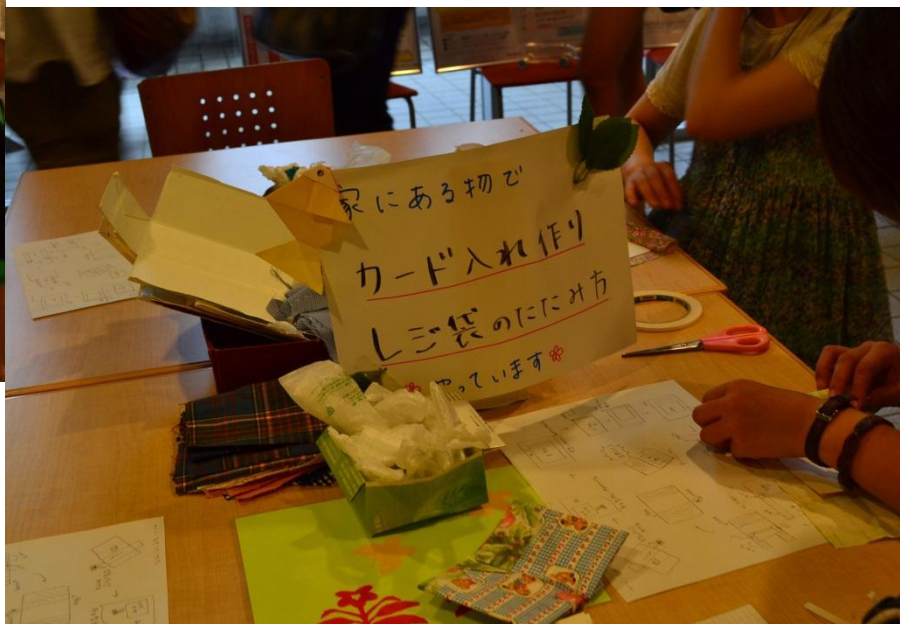
他大学の学生も会場を訪れ、「環境ボランティアは参加するだけの人力にしかねらず、不満だった」と話し、里山班から活動ノウハウを相談していました。

大学生らしい ライフスタイル

2012年8月18日10:00～16:00

生田オープンキャンパス

- ・活動報告展示
- ・カード入れづくり
- ・レジ袋のたたみ方とその利用
- ・作って知るダンゴムシの形体



子どもの頃に着た服や思い出の物を片づけることも必要。と、はなしあいから生まれたこの企画。捨てる前に思い出づくり。名刺入れになって生まれ変わります。「私はこういうものです」名刺を差し出す意味を考え、家族の愛情の詰まった名刺入れが自分を包みこんでいきます。台紙は牛乳パック、型紙も作り方も手作りです。工夫するひと手間ごとに、思い出ばなしが膨らんでいます。



いろいろな人がいて
それは優しい空間

オープンキャンパス2日目は、学生スタッフやさしいくらしが、家庭にある‘もったいないもの’を利用するワークショップを中心に、日頃の大学生のそのままと伝えました。

来場者と学生の垣根をなくし、共に過ごすひと時の中で、高校での悩み、いじめ、親との関係など、会話は広がっていきます。初めて会った受験生同士が仲良くなる場面もありました。やさしいくらしが勧めている「はなしあひ」は、和やかな雰囲気、終日満員でした。展示のペットボトルリサイクルは、「モグラ避け」と「エコカー」。さりげない装飾品から、学部の研究内容や授業の話になります。リサイクル問題やエコの取り組みの本質について、来場者と同じ目線で意見交換。

参加とはお客さんにしないこと。こなら楽舎の居心地に、片づけ後もこなら楽舎には訪問が続きました。



エコバックが本当にエコか。というはなしあいで、レジ袋を靴に入れていた男子学生が多いことに着目。こなら楽舎では使い終わったレジ袋の回収を行い、ゴミ拾いなどに活用しています。コンパクトに折りたたんで常用して女子カアップしよう！と、レジ袋の折り方を男子から伝授。「レジ袋は開いて敷物にする」「寒いとき着る」等、新しい発見もあり笑いが絶えないワークショップでした。

机の奥に眠っていた折り紙を持ち寄り、ダンゴムシを折りました。ダンゴムシが自然の生態系に果たす役割や、形体の面白さを伝えながらの作業です。なかなか難しい折り紙でしたが、ダンゴムシ以外にも様々な生物が出来上がりました。最後に鈴虫が出来上がった時は、一同大拍手でした。

記:こなら楽舎 本間